

第19回静岡コロキウム顛末記

第19回静岡コロキウムは、静岡県工業技術センター資源環境技術研究会の協賛及び東邦化工建設（株）の協力を得て、平成11年11月18日（木）午後2時より三島市民文化会館にて開催された。同年5月に行われた前回のコロキウムでの、環境「ISO14000」のテーマに続く形として今回は、「水処理技術を考える－浄水から下水まで」を取りあげた。実際の現場に近い第一線からの報告をということで、東邦化工（株）から2演題と、行政の視点も加味しての学界からのアプローチについて、水処理技術全般の専門家である豊橋技術科学大学の藤江幸一先生から講演を頂いた。

第一席では、東邦化工建設（株）分析センターの塚野和夫氏より「水質分析における分析手法」と題して、環境に関する法規制の流れから、分析項目毎の分析手法の選択について詳細なる解説があった。特にガスクロマトグラフ装置での種々の検出器の特徴や今話題のPCBとかダイオキシンの分析における前処理＝濃縮操作の具体例は、貴重な聴講の機会となった。揮発性有機化合物のガスクロ分析における検出器の選択法の例や、各種濃縮操作法の長所・短所解説は、大いに参考になった。

続いて第二席では、「塩素系溶剤による汚染地下水の浄化」と題して同じく東邦化工建設（株）の坂井信康氏より講演があった。最近の汚染地下水の浄化技術の概要と、その浄化工程で発生する塩素系有機化合物の回収方法について詳細なる解説・報告があった。注目された技術・話題として、揮発性有機溶剤の吸着法に用いられている活性炭素繊維（ACF）の特長がある。粒状活性炭に比べて、吸・脱着速度が一桁大きいのは魅力的である。また実証試験段階の生物学的処理方法についても、質問が集中して関心の高さが示された。

5分間休憩の後、最後の講演となった藤江先生の演題は「水環境へのエミッション低減をめざした生産プロセスと排水処理」。先生の研究室における活動紹介を含めて、広く水処理全般に関わる現状把握と課題抽出およびこれからの対策技術への提言についての格調高い講演であった。特に、愛知県を中心にしての地域および産業活動に関する物質・エネルギー収支をデータベース化し、ゼロエミッションへの対策と手順を探る取り組みには感心した。一方では、排水処理の要素技術であるオゾン酸化やフェントン酸化についても詳しく解説があり、マクロからミクロまで幅広い内容であった。

前回のコロキウムにくらべて30名弱の参加者と少なかったが、コロキウムの趣旨が「専門家を呼んでの勉強会」であることから、講演後の缶ビール片手にしながらの質疑応答も含めて実り多い会となった。

最後に、今回の開催にあたり、貴重なご助言と多大なるご協力いただいた静岡大学 松田 智先生、および東邦化工建設（株） 赤尾社長に心よりお礼を申し上げます。

（日本軽金属（株） 浜辺順彦 記）

